

日本看護学教育学会 第29回学術集会 ナーシング・サイエンスカフェ

広報・渉外・社会貢献委員会報告

看護ってどんな仕事?-高校生による看護研究発表-

日時: 2019年8月4日(日) 13:10~14:40

場所: 国立京都国際会館 第4会場(B-2)



未来の看護を担う高校生が発信者となり、高校生からの視点で自分たちが考える看護や日々の学習成果を会場全体で共有し、それぞれの立場で〈これからの看護について考える〉という本企画は、今年で3年目となりました。一昨年・昨年と続き、今年も京都府内の2校の看護に関連のある学科で学んでいる高校生のみなさんによる心を揺さぶられる素晴らしい発表でナーシング・サイエンスカフェがスタートしました。

1校目は、京都府立洛東高等学校医療科学系で学んでいる6名の生徒さんたちによる発表でした。生徒さんたちは、「医療福祉」という授業の中で高齢者疑似体験の学びから加齢による身体的な変化を実感しました。そして、実感だけにとどまることなく高齢者にとってこの「しんどさ、つらさ、不安」が日常に存在していることは、将来医療系の仕事に就こうと考えている自分たちにとって、きれいごとではすまされないとても重要なことだと考えたそうです。そこで高齢者の方々に対する関わりとして「共感する」「理解する」ということを最終目標とするのではなく、高齢者の方々の日常生活を第一に考え、一人ひとりが安心・安全で住みよいことにプラスして「楽しみが増える」まちづくりをキーワードにプロジェクト(RAKUTOU 幸せ注入！ライフプロジェクト)を立ち上げ、たくさんの価値ある学び・成果を上げられました。その活動をまとめたのが今回発表をしてくれた『『楽しみ増える』まちづくり~RAKUTOU 幸せ注入！ライフプロジェクト~』でした。地域に住む方々の視点に立って考え、地域の实地調査や高齢者の方への聞き取り調査を行い、高校生ならではの視点を活かす、ささやかでも毎日の生活に楽しみが増える継続性のある企画にポイントを絞り取り組まれました。活動に至った動機だけでも、発表を聞かれていたの方々の中には〈ビックリ〉とした方もおられたかもしれません。さらに、具体的な活動については常に相手の立場になって考え、試行錯誤しながら非常に丁寧に取り組んでいた内容(「お散歩マップ」、「高齢者でも作るのが簡単で食べやすい健康的な季節のお料理レシピや楽しい情報が書かれたカレンダー」)はテーマの通り、幸せが注入され楽しみが増えるというのが伝わるものでした。「私たち高校生にできることは、ほんの少しの力かもしれませんが、一人ひとりの日常生活の中の『少しの楽しみ』を増やすことによって『生活の質』をあげることへつながっていきたいと考えています」と締め括られましたが、1年半の取り組みは今もお継続されており、これからも地域で暮らす人たちの生活を豊かにする大きな力だと思わせてくれた発表でした。



2校目は、学校での学びと〈多職種連携〉をキーワードに実習での経験を通しての学びを発表してくれた京都府立京都八幡高等学校の介護福祉科で学んでいる4名の生徒さんたちでした。〈4つの介護の原則〉を大切に、利用者の方に安心して安全な介護を提供し信頼感を高めるために日々どのような学習活動を行い、どのようなことを感じ学んでいるのかを伝えてくれました。3年生で行う介護実習では〈生命の安全〉〈生活の安定〉〈人生の豊かさ〉という3つの視点を重視して「個別援助計画」を作成するそうです。このことについて、実際に自らが経験した実習（90歳代 股関節の術後 歩きたいという思いが強い利用者）での場面を通し、そこから得た学び発表をしてくれました。利用者の方から「歩きたい」と言われれば、その〈思い〉を叶えるために全力を注ぐこと。そして、医療職と連携することで、健康状態にも目を向けて、安全に継続的に行えるのか助言を得ることができること。専門職がお互いの専門知識を活かして協力することで高齢者が望む暮らしが可能となり、その人らしい暮らしをすることで笑顔を引き出すことができることを実習を通して学び、また住み慣れた地域で暮らすことも高齢者にとっては安心の材料になることが分かったとのことでした。介護職として、多職種連携を通して、「歩きたい」という言葉の中には、誰と、どこを、どのように歩きたいのかというその人らしい願いがあり、その実現の先にある高齢者の笑顔を引き出せるようこれからも勉強に励みたいとまとめ、最後に介護の視点を身に付けた一人ひとりのめざす未来(姿)を教えてくださいました。



そして、コメンテーターとしてお越しいただいた田淵眞由美先生（京都中央看護保健大学校 看護保健学科 副学科長 保健師 写真左）、堂園けい子先生（京都桂病院 在宅看護専門看護師 写真右）が、それぞれの高校の発表に対しコメントをくださり、発表内容の意味や価値を見出し、さらにご自身の経験を重ねて話をしてくださることで2校の発表がさらに深く豊かなものになりました。また、今回の発表を支え続けてくださった高校の先生方からも、発表にはなかった取り組みや学びを全体に伝えていただきました。



今回のナーシング・サイエンスカフェでは、約70名の方が参加をしてくださいました。会場からの質問もあり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。未来を見据え、今、目の前のことに対し真摯な姿勢で向き合っている高校生たちの姿に心が震え、看護に携わっている一人ひとりが自分たちの仕事について、これからの看護・福祉を担ってくれる人たちのために今、何をなすことが望ましいのか・できるのかということについて考える貴重な時間となりました。

最後に、佐藤紀子理事長より、優秀発表賞として、2校に対し表彰状が授与されました。



会場参加者からのアンケートの結果は、以下の通りです。

全般的に満足度が高く、会場参加者も初心にかえり、感動し学ぶ機会が多かった企画であったことが伺えました。

表1 参加者の所属 n=37

所属	人数	%
高校生	0	0%
保護者	2	5%
教員	28	76%
その他	7	19%

表2 地域 n=37

所属	人数	%
京都府内	11	39%
京都府外	18	49%
NA	8	21%

表3 企画内容の満足度 n=37

企画内容	人数	%
満足	26	70%
まあまあ満足	9	24%
あまり満足しなかった	0	0%
満足しなかった	0	0%
NA	2	6%

表4 参加しての意見・感想(自由記載)の抜粋

高校で発表にあったような教育がされていること目からうろこでした。多職種連携や人生の豊かさのことばができることに驚いた！多感なこの時期に高齢者や子育てママのこと、つらさや思いに思いをよせることがとても大切な経験になっていると思う。大学でキャリアプランがゆらぐ学生もいる中で、高校生から看護職としてのプランを考えられることは大変良いと思った。親の気持ちで将来が楽しみになりました。コメントーターのコメントが素晴らしかった。原点に立ち戻ることができた。看護って素晴らしいですね。

高校生のうちからこのような学会での発表はとても良い経験になると思いました。生活の視点を中心にいろいろなことが考えられ、学ばれていることに感動しました。いずれ一緒に医療や介護の現場で働けることを楽しみにしています。また、ぜひ続けて発表ができると良いですね。頑張ってください。

<p>本日、2校のすばらしい発表を聴講させていただきありがとうございました。2年間特養に入所し、昨年亡くなった母のことを思い浮かべながら聴かせて頂きました。私自身、救急救命士として乗務するなかで、最前線におられる介護士や看護師の方々をはじめ、他職種の人と関わる大切さを日々実感しています。コメントターの先生もおっしゃられた通り、日本の未来は明るいと感じさせて頂きました。本当にありがとうございました。これからも一緒に頑張らしましょう！</p>
<p>大変立派な発表でありました。高校生の活動(学科での学習)の様子がよくわかりました。</p>
<p>このような企画があることを初めて知りました。とても新鮮な気持ちになることができました。</p>
<p>高校生の思考の柔軟性を発表から実感し、感心いたしました。これから介護・看護を目指す若者を増やすためにも、このような企画の継続・PR(高校生や中学生へのPR・広報に力を入れるなど)を期待しています。</p>
<p>高校生の方の一生懸命な取り組み、発表を聞かせていただき、胸が熱くなりました。看護師はこうあるべき、介護福祉士はこうあるべきといった固定観念を自分がもっていたことに気づきました。</p>
<p>高校生が自ら課題発見をし、課題解決に取り組んでいてすごいと思いました。マップとカレンダーが欲しいです。</p>
<p>高校生の発表内容が充実していてびっくりしました。学生の考える力はすごいと思います。教員は、学生を支える側であるが多くの学びを得ることができました。</p>
<p>高校の生徒さんが、本当に高齢者や患者さんの目線になって調査したり、疑似体験してくれたことを発表してくれたのですごく新鮮でした。私自身の学びになりました。自校に戻って学生や教員に伝えたいと思いました。ぜひ、この企画を継続してもらいたいです。</p>
<p>自分の子供(小学生)を連れてくればよかった。とても刺激になり、初心に帰れました。</p>
<p>今回、初めてこのような場に参加させて頂きました。高校生の方々に「調べ、深く知る」ということを教えて頂きました。高校を卒業してから、大部の年月が経っていますが、看護師を目指している者としてすごく刺激を受けました。ありがとうございました。</p>
<p>IPE・IPWの基本姿勢を改めて考えさせられました。自分の考え、行動を振り返り、活かしたいと思います。</p>
<p>毎日の勉強・実習でいっぱいになっていた日々でしたが、誰かのために何かをしたい、その人の立場になって相手のことを分かりたい、という気持ちが大切だということを再認識できました。</p>
<p>どちらの学校の学生さんも、熱心に取り組まれていることをとても分かりやすく発表されており、目指す夢に向かっていろんなチャレンジをしている姿にとっても感動しました。私も高校生の時に、病院で一日体験をしたことで看護師になろうという目標が定まりました。初心に立ち返ることができました。ありがとうございました。</p>
<p>高校生にこのような大きな学会での発表の場を与えていただけことは、今後の進路選択のためにも人間としての成長のためにもありがたかったと思います。</p>

今回のナーシング・サイエンスカフェも、参加した一人ひとりが「看護の仕事とは何か」という問いの原点に立ち戻ることができたと思います。そして、将来が楽しみな高校生たちに出会い、近い将来、ともに介護・看護の世界で協働できる日が訪れることが楽しみになった機会となりました。

(文責：山之内由美、写真：津嘉山みどり)





広報・渉外・社会貢献委員:

任和子委員長(京都大学) 小松浩子副委員長(慶應義塾大学)

内藤知佐子(京都大学医学部附属病院) 清水安子(大阪大学) 山之内由美(松下看護専門学校)

津嘉山みどり(大浜第一病院) 三科志穂(兵庫県立大学) 趙崇来(佛教大学) 宇多雅(京都看護大学)